

ぷちインフォ

‘05. 2月号

～総合かぜ薬って、なにがはいっているの？

解熱鎮痛成分

アセトアミノフェン、エテンザミド、
イブプロフェン、アスピリンなど。

ほとんどが熱を下げ、炎症を抑え、痛みを除く作用を持っています。お子さんの熱がなかなか下がらないなどの理由から過量に使って、低体温を惹き起こさないよう注意

消炎酵素剤

ブロメライン、塩化リゾチーム、セアプロローゼS、
セラペプターゼなど。

炎症反応のおきた部分を掃除して、組織をきれいな状態に戻してくれます。パイナップルや卵、麴からできているものもあり、食物アレルギーのある方は薬剤師にご相談ください。

抗ヒスタミン成分

マレイン酸クロルフェニラミン、ジフェンヒドラミン、
フマル酸クレマスチンなど。

鼻水を止めたりアレルギー反応を抑えるために使われます。眠気や注意力の低下が出やすいので注意。中ではメキタジンが眠気の副作用が弱いと言われています。排尿障害のある方や緑内障の種類によってはお飲みいただけないことがあります。

カフェイン

中枢興奮作用を利用して、眠気の防止、疲労感を一時的に取り除くために配合されています。カフェイン入りの滋養強壮剤や嗜好品などで重ねて摂りすぎると、不眠や消化器症状の原因となりますので注意が必要です。

去痰成分

塩酸プロムヘキシン、カルボシステイン、エチルシステイン、グアヤコールスルホン酸カリウム、グアイフェネシンなど。

痰の成分を変えたり、粘つきを切ったり、気管をなめらかにして痰を出しやすくする作用があります。

咳止め成分

コデイン、ジヒドロコデイン、ノスカピン、デキストロメトルフアン、リン酸ジメモルフアン、ナペピジン、塩酸エプラジノンなど。

コデイン、ジヒドロコデインは効き目は強いですが便秘をおこしがちなので、痔疾患をお持ちの方はなるべく避けたい咳止めです。リン酸ジメモルフアンは耐糖能に影響するとの説もあり、糖尿病の方は避けた方が無難でしょう。

ナペピジン、塩酸エプラジノンには痰を楽にする効果もあります。

このほか、生薬成分や交感神経興奮成分など、種々の薬剤が組み合わさって効果を発揮しています。市販の風邪薬の服用は4日以内にとどめ、よくなるない場合には、早めに近医を受診しましょう。暖かくして、湿度もあげて、睡眠をとることが重要です。

—親切、便利、安心、お役に立ちますノムラ薬局